

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

Q1. 「る・らる」の用法を答えよ。

親に叱らる。

Q2. 用法を答えよ。

上、仰せらる。

Q3. 用法を答えよ。

字、読まれず。

Q4. 用法を答えよ。

故郷を思へば、涙ぞこぼるる。

Q5. 用法を答えよ。

帝、御文を書かせたまふ。

Q6. 用法を答えよ。

雨に濡らさる。

Q7. 用法を答えよ。

君、寝らる。

Q8. 用法を答えよ。

暗くて、人に見られず。

Q9. 用法を答えよ。

故人を思ひ出でらる。

Q10. 用法を答えよ。

嘆かる。

Q11. 用法を答えよ。

風に飛ばさる。

Q12. 用法を答えよ。

帝、御幸したまふ。

Q13. 用法を答えよ。

心定まらずして、なほ書かれず。

Q14. 用法を答えよ。

故郷を偲ばる。

Q15. 用法を答えよ。

大臣、仰せらる。

Q16. 用法を答えよ。

心の奥を見透かさる。

Q17. 用法を答えよ。

京を出でらる。

Q18. 用法を答えよ。

鐘の音、遠く聞こえらる。

Q19. 用法を答えよ。

暗くて、字読まれず。

Q20. 用法を答えよ。

雷に打たる。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 用法を答えよ。

人に笑はる。

Q22. 用法を答えよ。

大納言、いとうつくしと見らる。

Q23. 用法を答えよ。

苔の上、踏まれず。

Q24. 用法を答えよ。

昔のこと、ふと思ひ出でらる。

Q25. 用法を答えよ。

御車をひかる。

Q26. 用法を答えよ。

上、いみじう涙落とさせたまふ。

Q27. 用法を答えよ。

心細さに、故郷の事覚えらる。

Q28. 用法を答えよ。

風の音にも驚かる。

Q29. 用法を答えよ。

賊に縛らる。

Q30. 用法を答えよ。

中宮、御文書かせ給ふ。

Q31. 用法を答えよ。

暮るるに、家に帰られず。

Q32. 用法を答えよ。

上、御簾の中より見らる。

Q33. 用法を答えよ。

あはれと感じらる。

Q34. 用法を答えよ。

親に許されぬ恋。

Q35. 用法を答えよ。

鳥の声に、心動かる。

Q36. 用法を答えよ。

上、内裏より出でらる。

Q37. 用法を答えよ。

鬼に追はれぬ。

Q38. 用法を答えよ。

物の音に、めざめらる。

Q39. 用法を答えよ。

御めぐみ、いみじう被らる。

Q40. 用法を答えよ。

心、なほ静まられず。

Q41. 用法を答えよ。

大臣、御文を読ませたまふ。

Q42. 用法を答えよ。

露に袖濡らさる。

Q43. 用法を答えよ。

故里の山々、ふと見らる。

Q44. 用法を答えよ。

帝、すべて聞こし召さる。

Q45. 用法を答えよ。

我れ、月の光に妬まる。

Q46. 用法を答えよ。

風の冷たさに、わが袖の薄さ思ひ知らる。

Q47. 用法を答えよ。

急ぎ過ぎて、足取らる。

Q48. 用法を答えよ。

院、御琴を弾かせ給ふ。

Q49. 用法を答えよ。

暁の鳥、自づから鳴き出でらる。

Q50. 用法を答えよ。

何ともいはれず。

【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

Q51. 用法を答えよ。

我が宿の梅、知る人に折らる。

Q52. 用法を答えよ。

涙のこぼるるを、人に知らるまじ。

Q53. 用法を答えよ。

思へど、いふべきにあられず。

Q54. 用法を答えよ。

中宮、御簾を上げさせたまふ。

Q55. 用法を答えよ。

御所より召し出ださる。

Q56. 用法を答えよ。

鳥獸に恐れらる。

Q57. 用法を答えよ。

いみじき露しげき野を分け給ふに、御袖もえ濡らされず。

Q58. 用法を答えよ。

故院の御事、忘れがたく思ひ出でらる。

Q59. 用法を答えよ。

帝、御涙を流させ給ふ。

Q60. 用法を答えよ。

矢を射らる。

Q61. 用法を答えよ。

御様、いみじうおぼし召さる。

Q62. 用法を答えよ。

夢に故人を見らる。

Q63. 用法を答えよ。

嵐に倒さる。

Q64. 用法を答えよ。

いみじきこと言ひ出でられぬ。

Q65. 用法を答えよ。

御文、いつしか書かれたり。

Q66. 用法を答えよ。

月見れば、いとど昔思はる。

Q67. 用法を答えよ。

いかにせらるべき。

Q68. 用法を答えよ。

親に責めらる。

Q69. 用法を答えよ。

山深きにて、人にも逢はれず。

Q70. 用法を答えよ。

御目とまらる。

Q71. 用法を答えよ。

故里の事覚えらるを、人に語る。

Q72. 用法を答えよ。

御文をささげさせ給ふを、上より召し出ださる。

Q73. 用法を答えよ。

笠なくて、雨に濡らされぬ。

Q74. 用法を答えよ。

我が思ひ知らる。

Q75. 用法を答えよ。

こなたへ近く参られず。

Q76. 用法を答えよ。

大宮、御文をしたためらる。

Q77. 用法を答えよ。

心と心、引かる。

Q78. 用法を答えよ。

馬より落とさる。

Q79. 用法を答えよ。

院、御けしき改めらる。

Q80. 用法を答えよ。

我が身いみじういとほしく思ひやらる。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 用法を答えよ。

心ばへことに、思しめさる。

Q82. 用法を答えよ。

山風に紅葉散らさる。

Q83. 用法を答えよ。

御涙のこぼるるを、つつみあへ給はず。

Q84. 用法を答えよ。

ある時は、御使ひに召し出ださる。

Q85. 用法を答えよ。

御簾を上げて、月見らる。

Q86. 用法を答えよ。

雪深き道、行かれず。

Q87. 用法を答えよ。

いみじき露、袖に置かる。

Q88. 用法を答えよ。

故院の御面影、まのあたりに見らる。

Q89. 用法を答えよ。

中將、御文を持ち参らる。

Q90. 用法を答えよ。

病重く、起き上がられず。

Q91. 用法を答えよ。

御口惜しき御心ばへ、世にも知らるばかりなり。

Q92. 用法を答えよ。

心の闇に惑はる。

Q93. 用法を答えよ。

上、御けしきいとうるはしげに、聞こし召さる。

Q94. 用法を答えよ。

心づくしの秋風に、ますますあはれ思ひやらる。

Q95. 用法を答えよ。

罪に問はる。

Q96. 用法を答えよ。

御車寄せられぬれば、降り立たせ給ふ。

Q97. 用法を答えよ。

いはむかたなく、心細さおぼえらる。

Q98. 用法を答えよ。

御徳、ひろく世に施さる。

Q99. 用法を答えよ。

心安く眠られず、夜もすがら泣き明かさる。

Q100. 用法を答えよ。

月の出でぬるに、ふと見出ださる。